

トラクタにヘルメット？

「自転車に乗るときはヘルメットを被りなさい」と、子供の頃に先生や親に言われて、面倒だなと思ったことはないでしょうか。恥ずかしながら、私はよくそう思っていました。

農業短期大学校の研修では、受講生にトラクタ*に乗るときには「ヘルメットを被るように」と指導しています。なぜか？トラクタの事故から身を守るためです。

トラクタによる死亡事故は年間約 100 件発生しています(*1)。福島県において、今年の5月には、トラクタによる 1 件の死亡事故（伊達市）、1 件の重傷事故（古殿町）が新聞で報道されていました。

トラクタ事故の約 8 割が「機械の転倒・転落」を原因としています(*1)。この転倒・転落を未然に防ぐことが、最善であることはいうまでもありません。しかし、転倒・転落した後に、自分が重傷化しないための対策も同じく重要です。

その対策とは、①安全フレーム・キャブ+シートベルト、②ヘルメットの着用です。①が最も効果的ですが、導入のコストを考えると、ハードルが高いかもしれません。そこで、②のヘルメットです。ヘルメットはトラクタの転倒、または機械からの転落による頭部への外傷を防いでくれます。実際、ヘルメットを着用していたことで、大怪我に至らなかった事例もあります。

ここまできて、「ん～、トラクタにヘルメットねえ？」と思われた方は、以下の 2 点を試してみることをおすすめします。

- ・だまされたと思って、1 週間ヘルメットを着用してトラクタに乗ってみる
- ・トラクタの近くにヘルメットを置くようにする（座席に置いてみる）

ヘルメットを被る 5 秒の手間が、いざという時にあなたを助けてくれるかもしれません。

*本記事では、トラクタは「乗用型トラクタ」を指しています。

参考資料

*1 農林水産省調べ